

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念を、安心して生活できる場、心を込めたサービスの実施、地域の中でふれあいのできる施設を目指す。とし、職員各自、念頭におきながら支援に努めている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		玄関、食堂、廊下に理念、目標を掲示し、常に理念を意識できるようにしている。また、会議などでは理念に基づいて話し合いを行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		玄関、食堂、廊下に理念を掲示しており、利用案内書へも記載し、説明を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ごみ収集所で会った時にあいさつを行ったり、駐車場に車が止められない時など、「どうぞ、止めてください。」等、隣近所の方から声をかけて頂くなど、交流を図っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		毎年地域で行われる、夏のお祭りへの参加、自治会で決められたごみ収集所の清掃、ホームの行事の際にチラシを配布する等、地域の活動へ参加するよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>相談、見学は随時行っているが、地域の高齢者の方々等についての、話し合いを行う機会が少ない。</p>		<p>相談、見学などを行っている事をアピールし、気軽に立ち寄って頂けるようにしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>会議等では、理念に基づき話し合いを行っており、課題についても意識をしている。又、評価内容を玄関に掲示しており、全員に確認できるようになっている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、民生委員、町会役員、支援センター長などと情報を交換し、意見を反映していけるよう努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>随時、パンフレットを届けたり、高齢者福祉課、包括支援センターを訪問し、サービス提供表を活用して、情報交換を行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>随時、相談は行っており、必要な方には対応できるようにしている。職員へは、その都度説明を行うようにしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待に関する講習会への参加を行い、理解を深めている。虐待防止にいても、意識しながら日々のケアにあたっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>当ホームの特性を基に、日々の生活の流れ等、具体的に分かりやすく説明し、理解、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に、日々の生活の中で見えてくる利用者の訴え、意見をくみとり、職員間でも共通理解し、対応できるよう努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、その都度利用者の近況報告を行っており、緊急時には電話連絡するなど、報告は密に行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時、家族からの意見等は傾聴し、職員間で話し合い、対応できるよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からあがった意見は、管理者にも周知してもらうよう、随時、報告、話し合いを行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事を行う際には、人員を多くもうけたり、より安全に配慮し、シフトを作り、対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係となり、継続したケアを行えるよう、離職を減らし、利用者、職員が共に安心した生活を送れる場となるよう、関わりを多くとるよう努め、配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、職員の現状にあった研修に参加するようにしている。また、勉強会や、事例研究発表会を開催している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列内のグループホームでの勉強会は、開催しており、意見交換を行っている。が、地域の同業者間と交流する機会がない。		地域の同業者と交流する機会を設け、意見交換できるように検討していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス解消は個々で行っていると考えているが、話し合いの場で、業務内容のことだけでなく、気軽に話をする場を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	声掛け、助言などをし、個人、個人に関わりを持ち、各自の状況周知に努めている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とも面談し、本人の状況の確認、じっくりと話しをし、訴えを聞きとる等、行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と面談し、今までの生活状況、困っている点など、詳しく話しをし、受け止めるよう行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にその方がグループホーム対象者であるか、よく検討し、担当ケアマネがいる場合等、ケアマネなどとも相談するようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その方の状態をよく観察し、始めは声掛けを多くし、関わりを持つ機会を増やし、不安感が軽減できるようにするなど、個々にあった対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側といった関係ではなく、共に生活を送る馴染みの関係として、気兼ねなく、安心して過ごして頂けるよう、声掛けを大切に、関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護者だけでなく、家族も本人を支える、大きな役割を持たれている。と考え、情報を共有し、共に本人を支える関係作りに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人の生活歴など、家族から得られる情報を、職員間でも共有し、話の話題を提供したり、橋渡しとなれるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人がデイサービスを利用されている時は、デイサービスへ会いに行ってもらったり、馴染みの人に会う機会を作れるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の相性などを考慮しながら、トラブルのなよう、注意しながら対応している。また、利用者間でコミュニケーションを図りやすいよう、機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	随時、相談等には応じるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中から、本人の思いや希望をくみとり、対応できるよう、日々の状態をよく観察することに努めている。また、本人の希望もできる限り受け入れられるよう、対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人、家族から、今までの生活歴などをくわしく確認している。また、日々の会話の中や、家族と話すする時なども、以前の話しをしたり、情報を得ている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録を活用し、日々の状態把握が行いやすいよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中から、本人、家族等の希望とされる暮らしとなれるよう、意見を聞き、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画にそくして見直しを行い、状態変化時は再度、本人等と話し合い、介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙を変更した事で、小さなことでも、その日、その方と接していて気付いた事など、記録しやすくなり、情報の共有化を図れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	随時、相談を受け付け、対応できるよう検討し、支援をするようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ハーモニカのボランティア、地域の小学校の実習の受け入れ等、協力して行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時は、地域のケアマネ等と協力して、支援していけるよう体制をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時は、協働して支援していけるよう体制をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族ともよく話し合い、本人に合った支援がなされるかかりつけ医を検討している。また、かかりつけ医への報告も、情報をこまかく伝えている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症について、助言、指導を医師より受けながら支援している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>施設長を含め、看護職員と密に連絡、相談、報告を行いながら、健康管理を行っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>退院時に、問題なく対応できるよう、情報交換し、情報収集に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時にも終末期に関して、本人、家族、かかりつけ医との相談は行っているも、現在、重度化や、終末期にあたる利用者はおらず、方針の共有にはいたっていない。</p>		<p>本人、家族などと話し合いを行い、本人の希望とされる形となるよう、方針を検討していき、共有理解していくよう体制をとっていく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在、重度化や終末期にあたる利用者は不在も、常に、本人、家族、かかりつけ医との連携ははかっている。が、具体的な対応をどこまで行うのか、明確ではない。</p>		<p>ホームとして、重度化や終末期の対応を、どこまで行うのか、具体的な対応を検討していく。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特に、始めは声掛けを多くするなど、関わりをもつ、本人のペースに合わせる等、本人の状態に注意しながら対応し、介護記録もよりこまかな状態を記録し、情報の共有をはかるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者は、目上の方であり、尊敬する心をもって接するよう、接遇面での話し合いを行い、注意している。特に声掛けなどに留意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>その方のできる、したい事は何か、日々の生活の中で観察し、できる事を続けて行ってもらえるよう、支援の工夫を工夫するなどし、話し合いを行ったりと、対応している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>各自の生活ペースに合わせ、何をすることも必ず声掛けし、確認するなど、尊重しながら支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出時は、着たい服を本人に選んで頂いたり、女性はお化粧をし、おしゃれを楽しんで頂いている。美容は近隣の美容室(利用者の家族が経営)に協力を得ている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの好みを尊重し、嫌いな物は別メニューにかえるなど、対応している。食事の準備も、(テーブル拭き・食器拭き等)利用者と一緒にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ある程度、時間帯を決めたり、量を制限したりしているが、個々に合わせ、お酒を飲まれる方には、お酒を楽しんで頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせ、下着やおむつの対応を考えている。なるべく失敗のないように、声掛けの必要な方や、誘導の必要な方は、個々の対応を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>無理に行うことのないよう、その方の入浴されたいタイミングを考慮しながら行っている。また、浴室内の温度などにも考慮し、快適に入浴できるよう、支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>その方に合った生活リズムで、適時、休息をとって頂いている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>今までの趣味や、普段行っていた家事動作などを活かし、日々の生活の中で、それらを行って頂く機会を作っている。(そうじがけなど)</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いを事務室で預かり、管理している。必要時はそこから、家族の了解もえて、利用していただくこととしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候に合わせて、随時、戸外へ散歩へ行くよう支援している。レクリエーション予定表にも、なるべく外へ出るよう、記入している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>外食やお花見など、皆で一緒に外出する機会を作り、楽しんで頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂、事務室の電話は自由に利用できる。かけられない利用者へは、職員が支援している。手紙も、ポストの投函など、支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	フロア - の一角にソファを設置し、そこで過ごして頂いたり、お茶をお出しし、ゆっくりして頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的には身体拘束を行わない事として理解しているも、やむを得ぬ理由、家族の強い希望で、ベット4点柵対応を行っている方が1名いる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる弊害を理解してはいるも、現状として、ホームの周りは交通量が多く、河川もあり、事故の危険性が高く、鍵をかけることがある。		なるべく気分転換が図れるよう、戸外へ散歩する機会を多くしたりしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、今、誰がどこに居て、何をされているのか、確認を各職員で行い、声掛けにて確認もしあい、安全に注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普通の生活環境とかけ離れないよう、なるべく環境面に注意しながら、洗剤などは戸棚にしまい、鍵をかけるなどしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時には、事故報告書の記入をし、再発防止策を話し合い、再発のないよう、努めている。また、事故に至らずとも、ハットヒヤリ報告などを行うようにし、より具体的に注意していけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基礎的な知識の習得として、救急時の対応の仕方など、勉強会を開き、行ったが、定期的な訓練までは行っていない。		今後、知識の習得、技術の向上を目指し、訓練を行っていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施しているも、災害時に地域の人々から、協力を得られるよう、運営推進会議で検討し、協力体制が具体的に図られている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族とは話しをしており、目配りを行ったり、巡視を多くしたりなど、なるべく事故のないよう努めていることを伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、体温、血圧の測定をしており、少しの異変でも、バイタルの確認をすぐに行うなど、早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬について、把握するよう指導しており、内服薬変更時は、副作用等の確認もしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、体操を必ず行って頂き、体を動かす機会を作っている。また、お茶など水分摂取も、しっかりと行って頂けるよう、努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず口腔ケアを行って頂いている。一人ひとりに合った介助方法で介助をし、口腔内の清潔に努めて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者に依頼し作っているが、配膳時に一人ひとりに合った量、形態などを考えながら配膳しており、食事の摂取量などの観察も行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手指の清潔には留意し、手洗いなどこまめに行っている。他の面でも清潔保持を心がけている。（手すりの消毒など）インフルエンザ予防接種は、年に1回、家族と相談している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理、食材の管理は業者に依頼し、行っている。台所は毎日掃除を行い、調理用具もきちんと洗浄し、清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープがあり、座って靴の着脱が行えるよう、椅子も設置してある。また、草花を植え、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には常に生花を飾り、季節を感じて頂けるようにしている。また、その月ごとに、季節の行事をモチーフにした、ちぎり絵などの作品を飾っており、より、愛着のもてる空間となるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア - の一角にソファを設置し、そこで日向ぼっこをされたり、利用者同士でお話をされたりしている。和室でも座布団やテーブルがあり、好きな時に利用できる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、仏壇を置かれたりと、本人の馴染みのある物を置いて頂き、安心して過ごせるようになっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開け、換気を行ったり、冷暖房の調節もこまめに行っている。利用者の訴えも尊重しながら、調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置してあり、出入り口にも段差がなく、安全面に考慮してある。浴室などもスベリ止めシートを使用するなど、注意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛けを動作分割して行う、ゆっくりと対応する、話し方を変える、など工夫して、なるべく自力で行って頂くよう、支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には、草花や野菜を植え、一緒に収穫したり、水やりを行ったりし、楽しまれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・季節感を大切にし、季節の行事では、利用者の方に楽しんで頂けるよう、いろいろな事を企画し、取り組んでいる。
- ・庭では野菜を植え、収穫した野菜を皆様に召し上がって頂くなど、家庭菜園を楽しんで頂いている。
- ・計算プリントや塗り絵、ちぎり絵、体操など、一人ひとりに合わせたものを行って頂いたり、皆で行うことの楽しみを味わって頂く様、皆でレクリエーションを行ったりと、毎日の余暇時間を楽しく過ごして頂けるよう工夫している。